

2007/1/10

柏の景気情報（平成18年12月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成18年12月分）

○ 調査期間 : 平成18年12月15日 ~ 12月19日

○ 調査対象 : 柏市内99事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	99	75	75.8%
建設	17	16	94.1%
製造	23	18	78.3%
卸・小売	40	29	72.5%
サービス	19	12	63.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【18年12月の調査結果のポイント】

◀ 業況DI値は2ヶ月連続でマイナス幅が拡大した ▶

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.6(前月水準▲12.3)となり、マイナス幅が▲2.3ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△16.6(同△17.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲20.6(同▲24.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲37.5(同▲26.6)、サービス業▲16.6(同▲8.3)である。

【建設業】では、「仕事の量が多くなった」との明るい声が寄せられた。しかし、「発注物件数はあるが、予算と仕入単価のバランスが悪く利益下降」、「材木等や石油高騰で住宅機器等も上がっている」との仕入上昇の声や、「大手・中堅ゼネコンの建設・リフォーム会社が増え、地場業者は大変低いシェアで営業活動を強いられる」、「色々な計画はあるが地元業者の参入機会が少ない。来年度は参入を希望」との参入に関する声や、「TX(つくばエクスプレス沿線)がらみの仕事は出ているが、全体的には例年に比べて仕事の引き合いが少ない」との厳しい声が寄せられた。「年内完了予定工事が集中し、人手不足が続いている。何とか調整しつつ乗り切るしかないが、休日返上状態なので社員の疲労が心配」との人手不足に関する声や、「大きな動きはない」との声も寄せられた。

【製造業】では、「業界全体で前年103%程度」との明るい声や、「売上は伸びているが、原材料価格の上昇が利益を圧迫。増収減益の状況」との仕入上昇の声や、「好転しているが、複写機(特にカラー機)の需要が落ち着いてくると楽観視は出来ない」との声が寄せられた。

【卸・小売業】では、「クリスマスイベントで後半のクリスマス商戦を盛り上げていく」、「お歳暮ギフトは前年の売上を上回る」、「年末を控え食品業界は多少良い」、「年末商戦たけなわと行きたいがあわてて買い物するような雰囲気は見当たらない」、「年末商戦は前年数字をとれてない」、「賞与時期だが高額商品の売れ行きが良くない」とのクリスマス・年末商戦の声が寄せられた。「南柏駅前・イオン・三井ららぽーとと新規開店が相次ぎ、駅周辺の集客力が落ちている。来年3月の東神おおたかの森も不気味」、「同業者のオーバーフロア化がますます進展し、業界全体が疲弊。小売のみならず、卸・出版社の経営危機表面化の可能性大」との相次ぐ大型店開店に関する声や、「最近、大型ショッピングセンターのオープンで熾烈な動き」、「大手ショッピングセンターや大手企業(物流含む)の進出の影響で人材不足。パートさん等が集まりにくい。事業に影響する」との大型店開店への声や、ららぽーと柏の葉開店の影響では、「当初から見ると一段落したが上昇の芽が出てこない」、「客足も現在のところ影響がない。ただし、北部近隣の飲食店では客足が奪われている。交通渋滞も当初だけで現在は平常に戻っており、電車利用でのお客さんが多いようだ」、「月初から入店客数は低調な出足となり、特に週末は平日よりも落ち込みが大きく、売上高は客数の影響を大きく受ける雑貨・飲食が低迷した。衣料品は大きな影響はないが、ジャケットの動きが鈍く客単価の減少で、中旬までの売上高は前年を切る」、「大型店のテナント店舗が少しダウン」との声が寄せられた。「衣料・住居が暖冬傾向でシーズン品の動きが悪く不振」、「暖冬のため『花』も早咲き。必要な時期に高値となりそう」との暖冬の影響や、「飲酒運転報道は、忘年会や新年会に影響が出る」との飲酒運転取り締まりや、「野菜は入荷減で単価安値。柑橘類のみかんは高値の動き。他の果実は前年並みの予想。相対的には消費量の伸び悩みで厳しい状況」、「ノロウィルスがはやっている」、「仕入単価下落により市況が軟化」、「原油高騰」、「量販店とガソリンスタンド、プラス暖冬にあい、灯油の販売状況は苦境に立っている。量販店は損を承知で販売しても他の販売品があるから得も大きい、我々には死活問題」との厳しい声の反面、「店舗近くの工事関係者等の弁当や飲料の需要が貢献し、前年並みの売上を確保」、「ここ2~3年採算・業況が上昇・好転」との明るい声も寄せられた。

【サービス業】では、「ボーナス前は暇だったがボーナス後は家族連れのお客が増えた」、「クリスマスは23・24日の予約が多い」、「予約客で忙しかった」とのボーナス・クリスマス商戦の明るい声の反面、「忘年会予約は伸びず、少人数化・低予算化が進んでいる」、「宴会件数は昨年と変わらず、しかし規模は小振傾向。宿泊はスポーツ関連はほぼ前年並み」との宴会小規模化の声が寄せられた。

◎クリスマス商戦・年末商戦

「クリスマスは23・24日の予約が多い」、「クリスマスイベントで後半のクリスマス商戦を盛り上げていく」、「年末を控え食品業界は多少良い」、「お歳暮ギフトは前年の売上を上回る」、「年末商戦たけなわと行きたいがあわてて買い物をするような雰囲気は見当たらない」、「年末商戦は前年数字をとれてない」、「賞与時期だが高額商品の売れ行きが良くない」との声が寄せられた。

◎ららぽーと柏の葉開店

「当初から見ると一段落したが上昇の芽が出てこない」、「客足も現在のところ影響がない。ただし、北部近隣の飲食店では客足が奪われている。交通渋滞も当初だけで現在は平常に戻っており、電車利用でのお客さんが多いようだ」、「月初から入店客数は低調な出足となり、特に週末は平日よりも落ち込みが大きく、売上高は客数の影響を大きく受ける雑貨・飲食が低迷した。衣料品は大きな影響はないが、ジャケットの動きが鈍く客単価の減少で、中旬までの売上高は前年を切る推移」、「大型店のテナント店舗が少しダウン」との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲16.4	▲42.8	△22.2	▲21.4	▲30.7
8月	▲10.6	▲33.3	△16.6	▲10.7	▲21.4
9月	▲14.8	▲26.6	△5.5	▲14.8	▲28.5
10月	▲7.1	▲20.0	△13.3	▲7.4	▲15.3
11月	▲12.3	▲26.6	△17.6	▲24.1	▲8.3
12月	▲14.6	▲37.5	△16.6	▲20.6	▲16.6
見通し	▲13.3	▲12.5	△5.5	▲24.1	▲16.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 6.6	▲ 1.3	▲ 8.0	▲ 14.6	▲ 40.0	▲ 26.6	△ 13.3	△ 14.6
建設	△ 12.5	±0.0	▲ 6.2	▲ 31.2	▲ 56.2	▲ 31.2	△ 18.7	△ 18.7
製造	△ 38.8	△ 27.7	▲ 5.5	△ 11.1	▲ 44.4	▲ 27.7	△ 16.6	△ 16.6
卸・小売	▲ 31.0	▲ 17.2	▲ 13.7	▲ 24.1	▲ 34.4	▲ 24.1	△ 3.4	△ 3.4
サービス	▲ 41.6	▲ 8.3	±0.0	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 25.0	△ 25.0	△ 33.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 14.6	▲ 13.3	▲ 6.6	▲ 2.6
建設	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 6.2	△ 12.5
製造	△ 16.6	△ 5.5	±0.0	△ 5.5
卸・小売	▲ 20.6	▲ 24.1	▲ 10.3	▲ 13.7
サービス	▲ 16.6	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 8.3

【平成18年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.6(前月水準▲12.3)となり、マイナス幅が▲2.3ポイント拡大した。

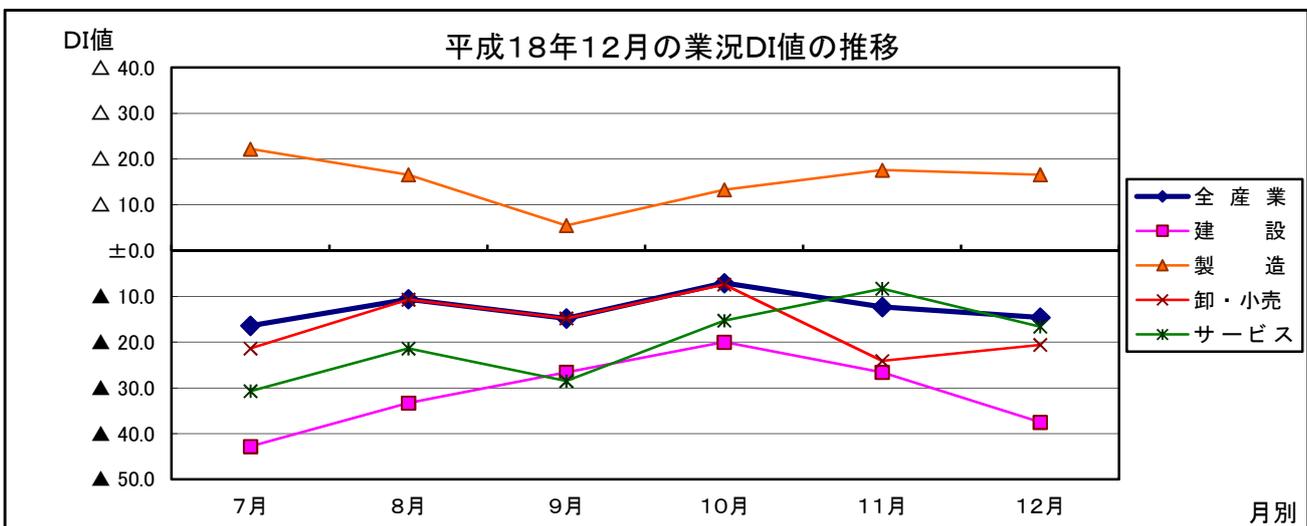
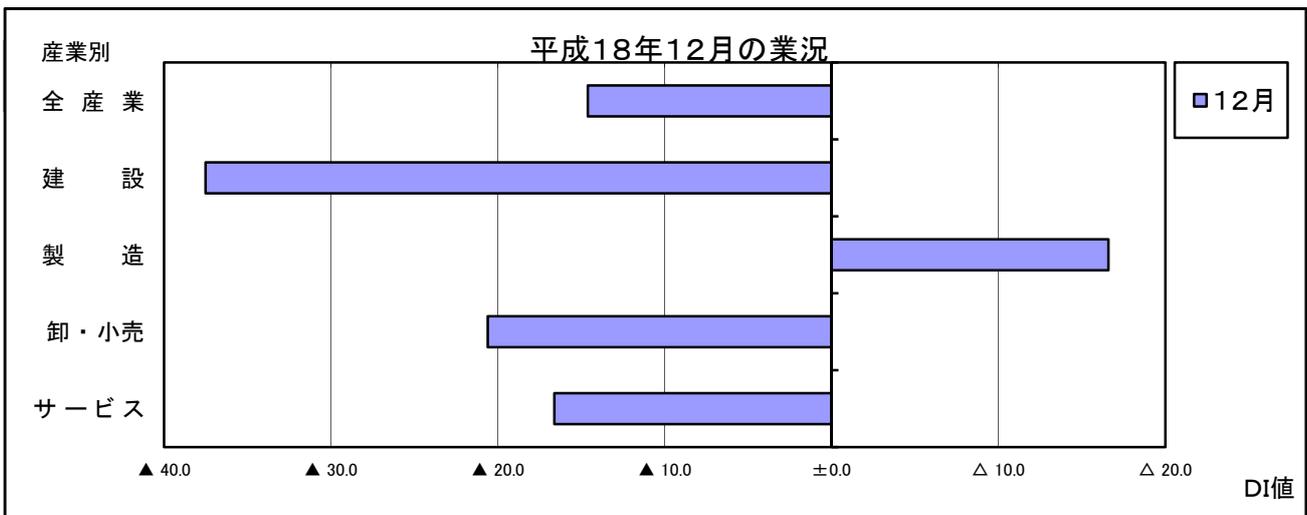
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△16.6(同△17.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲20.6(同▲24.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲37.5(同▲26.6)、サービス業▲16.6(同▲8.3)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.3(前月水準▲10.9)となり、マイナス幅が▲2.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△5.5(同▲17.6)であり、△23.1ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲12.5(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲24.1(同▲3.4)、サービス業▲16.6(同▲8.3)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲20.7ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成18年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲16.4	▲10.6	▲14.8	▲7.1	▲12.3	▲14.6	▲13.3(▲10.9)
建設	▲42.8	▲33.3	▲26.6	▲20.0	▲26.6	▲37.5	▲12.5(▲20.0)
製造	△22.2	△16.6	△5.5	△13.3	△17.6	△16.6	△5.5(▲17.6)
卸・小売	▲21.4	▲10.7	▲14.8	▲7.4	▲24.1	▲20.6	▲24.1(▲3.4)
サービス	▲30.7	▲21.4	▲28.5	▲15.3	▲8.3	▲16.6	▲16.6(▲8.3)



【平成18年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.6(前月水準▲6.8)となり、マイナス幅が△0.2ポイント縮小した。

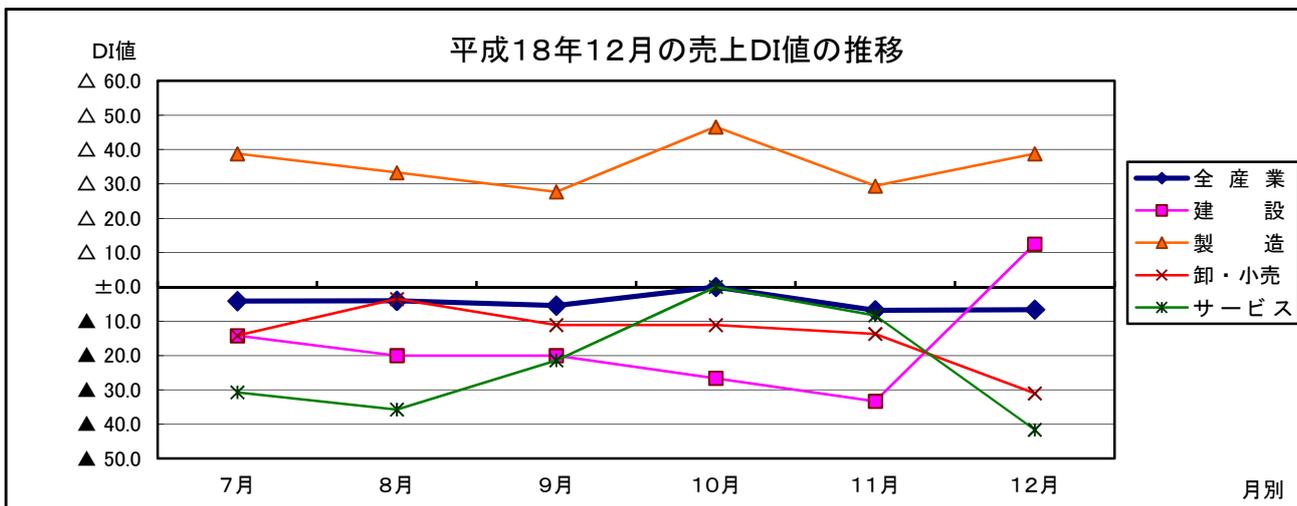
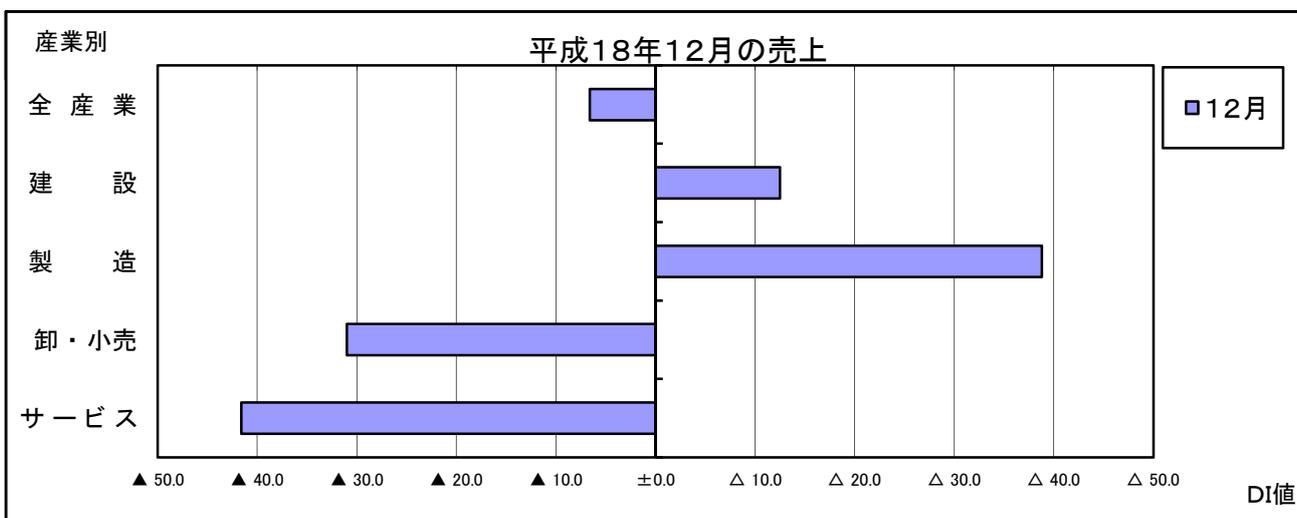
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△38.8(同△29.4)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△12.5(同▲33.3)であり、△45.8ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲41.6(同▲8.3)、卸小売業▲31.0(同▲13.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲33.3ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.3(前月水準△4.1)となり、マイナス幅が▲5.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通し業種は、製造業△27.7(同△17.6)である。変らない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲17.2(同±0.0)、サービス業▲8.3(同±0.0)である。

平成18年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲4.1	▲4.0	▲5.4	±0.0	▲6.8	▲6.6	▲1.3(△4.1)
建設	▲14.2	▲20.0	▲20.0	▲26.6	▲33.3	△12.5	±0.0(±0.0)
製造	△38.8	△33.3	△27.7	△46.6	△29.4	△38.8	△27.7(△17.6)
卸・小売	▲14.2	▲3.5	▲11.1	▲11.1	▲13.7	▲31.0	▲17.2(±0.0)
サービス	▲30.7	▲35.7	▲21.4	±0.0	▲8.3	▲41.6	▲8.3(±0.0)



【平成18年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.0(前月水準▲10.9)となり、マイナス幅が△2.9ポイント縮小した。

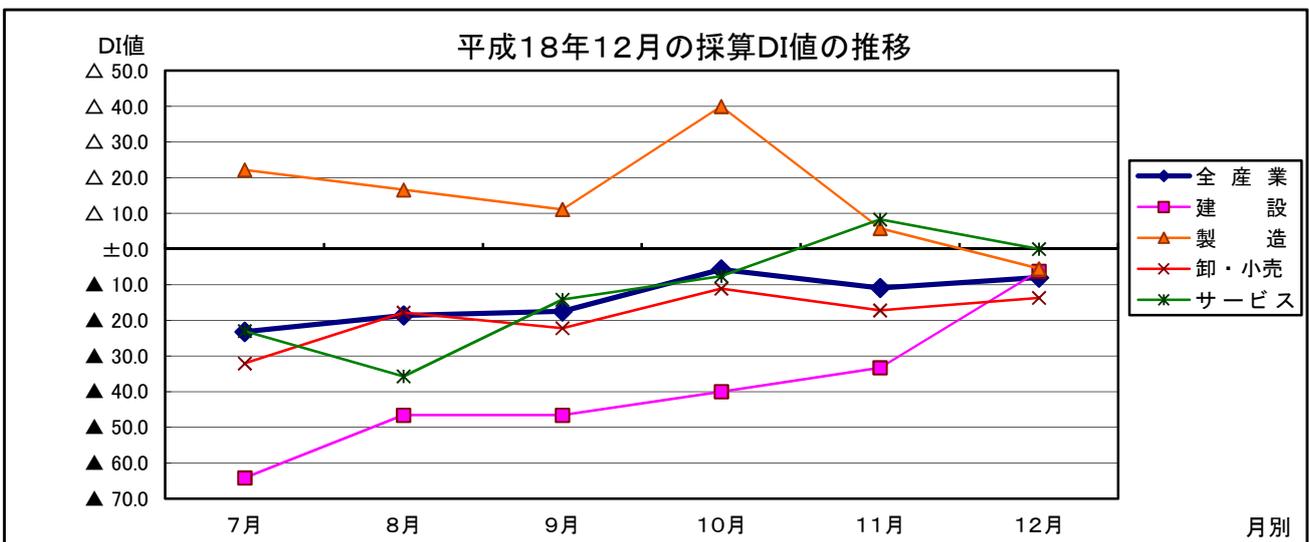
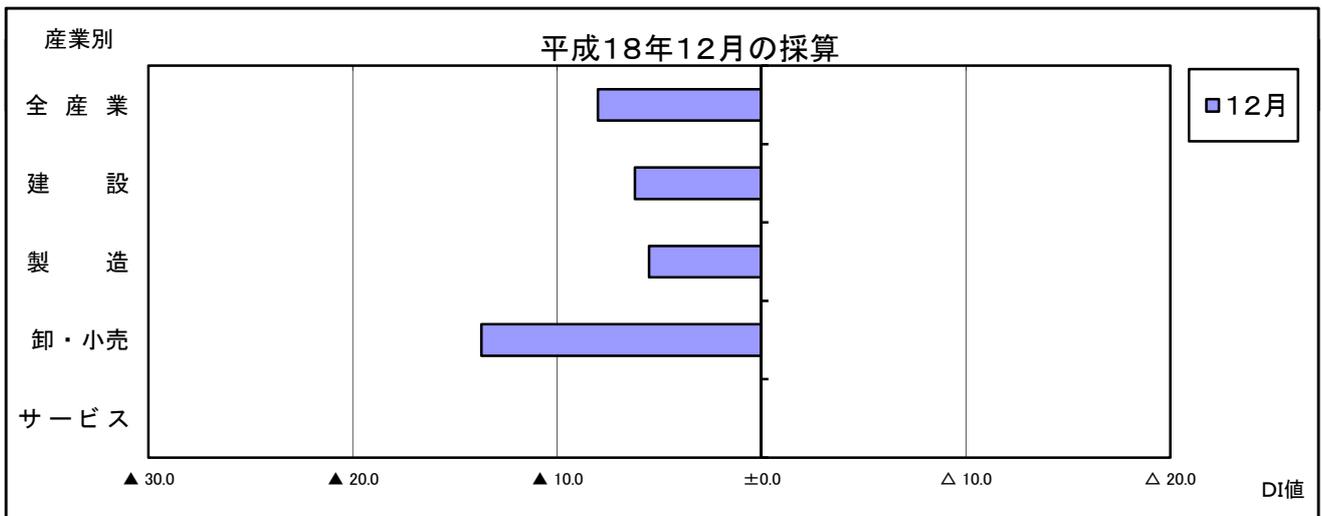
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△8.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲5.5(同△5.8)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲6.2(同▲33.3)、卸小売業▲13.7(同▲17.2)である。特に、建設業はマイナス幅が△27.1ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.6(前月水準▲4.1)となり、マイナス幅が▲10.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△11.1(同▲5.8)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲8.3(同△8.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲24.1(同▲3.4)、建設業▲31.2(同▲13.3)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲20.7ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成18年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲23.2	▲18.6	▲17.5	▲5.7	▲10.9	▲8.0	▲14.6(▲4.1)
建設	▲64.2	▲46.6	▲46.6	▲40.0	▲33.3	▲6.2	▲31.2(▲13.3)
製造	△22.2	△16.6	△11.1	△40.0	△5.8	▲5.5	△11.1(▲5.8)
卸・小売	▲32.1	▲17.8	▲22.2	▲11.1	▲17.2	▲13.7	▲24.1(▲3.4)
サービス	▲23.0	▲35.7	▲14.2	▲7.6	△8.3	±0.0	▲8.3(△8.3)



【平成18年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.0(前月水準▲32.8)となり、マイナス幅が▲7.2ポイント拡大した。

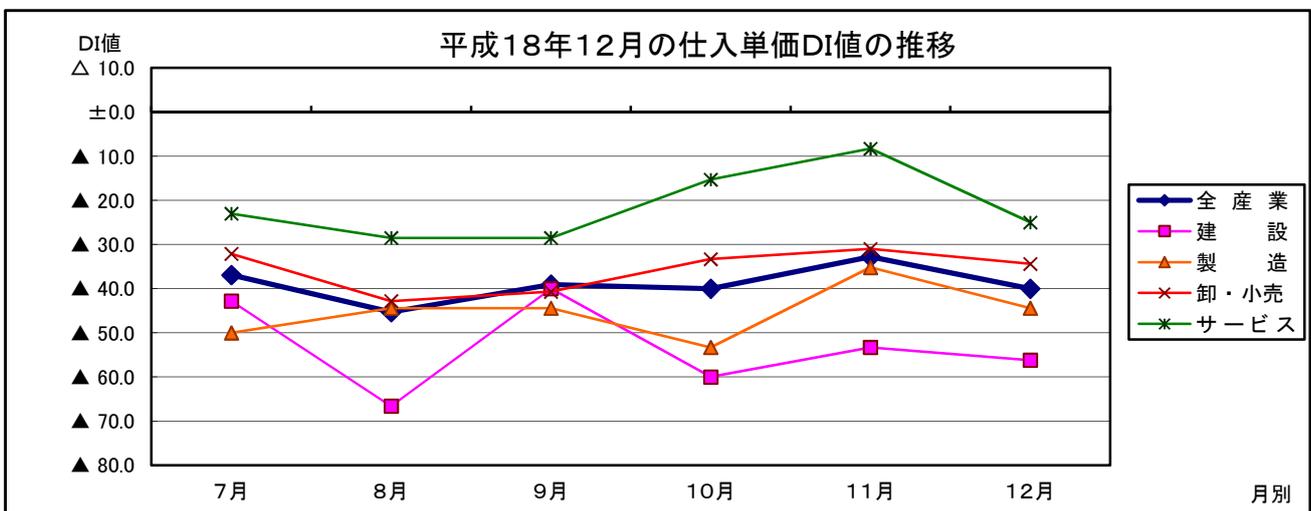
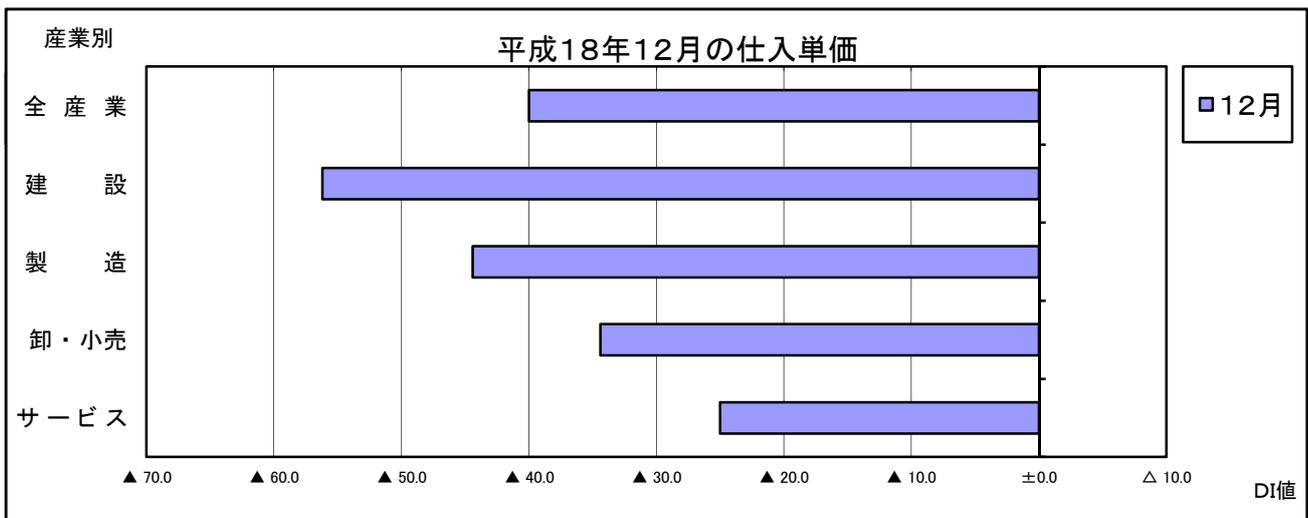
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲25.0(同▲8.3)、製造業▲44.4(同▲35.2)、卸小売業▲34.4(同▲31.0)、建設業▲56.2(同▲53.3)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.6(前月水準▲24.6)となり、マイナス幅が▲2.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲31.2(同▲53.3)であり、マイナス幅が△22.1ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲27.7(同▲17.6)、サービス業▲25.0(同▲16.6)、卸小売業▲24.1(同▲17.2)である。

平成18年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲36.9	▲45.3	▲39.1	▲40.0	▲32.8	▲40.0	▲26.6(▲24.6)
建設	▲42.8	▲66.6	▲40.0	▲60.0	▲53.3	▲56.2	▲31.2(▲53.3)
製造	▲50.0	▲44.4	▲44.4	▲53.3	▲35.2	▲44.4	▲27.7(▲17.6)
卸・小売	▲32.1	▲42.8	▲40.7	▲33.3	▲31.0	▲34.4	▲24.1(▲17.2)
サービス	▲23.0	▲28.5	▲28.5	▲15.3	▲8.3	▲25.0	▲25.0(▲16.6)



【平成18年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△13.3(前月水準△12.3)となり、プラス幅が△1.0ポイント拡大した。

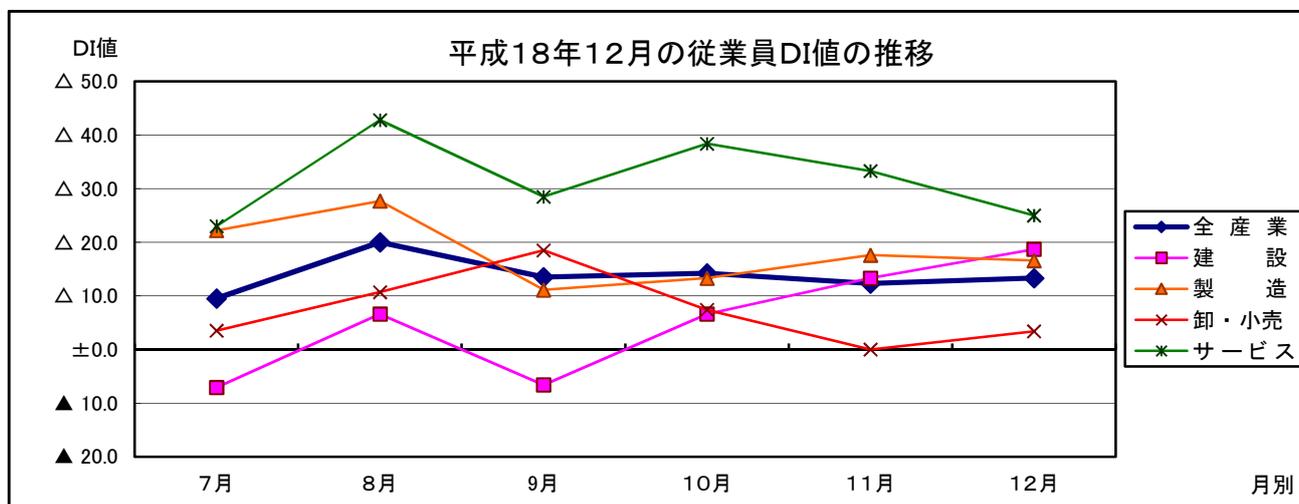
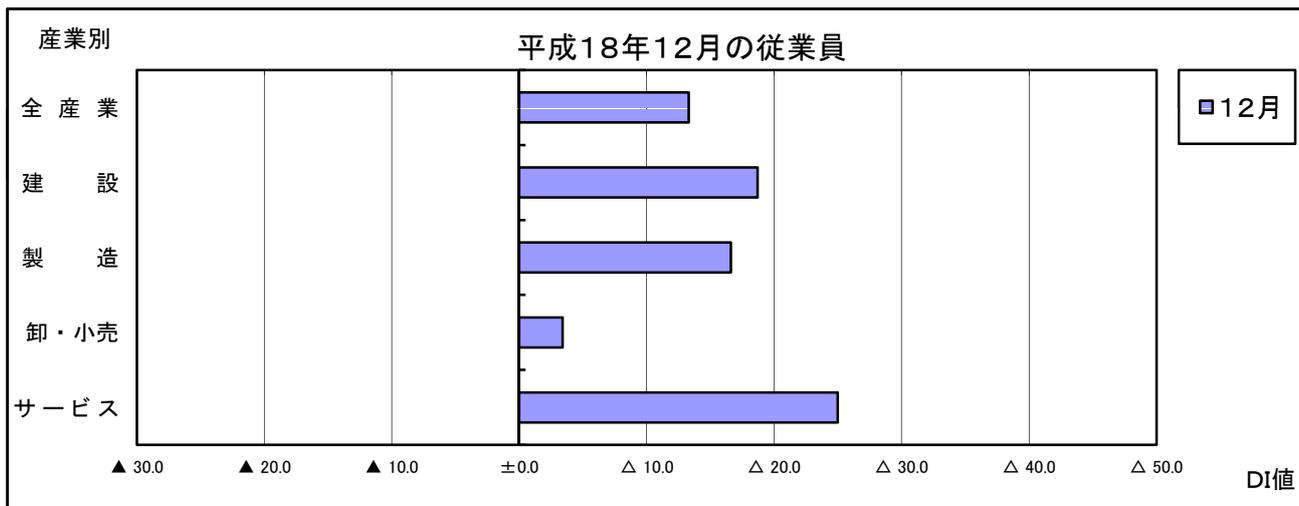
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△18.7(同△13.3)、卸小売業△3.4(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△25.0(同△33.3)、製造業△16.6(同△17.6)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△14.6(前月水準△23.2)となり、プラス幅が▲8.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△33.3(同△50.0)、卸小売業△3.4(同△13.7)、建設業△18.7(同△26.6)、製造業△16.6(同△17.6)である。

平成18年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	△ 9.5	△ 20.0	△ 13.5	△ 14.2	△ 12.3	△ 13.3	△ 14.6 (△ 23.2)
建設	▲ 7.1	△ 6.6	▲ 6.6	△ 6.6	△ 13.3	△ 18.7	△ 18.7 (△ 26.6)
製造	△ 22.2	△ 27.7	△ 11.1	△ 13.3	△ 17.6	△ 16.6	△ 16.6 (△ 17.6)
卸・小売	△ 3.5	△ 10.7	△ 18.5	△ 7.4	±0.0	△ 3.4	△ 3.4 (△ 13.7)
サービス	△ 23.0	△ 42.8	△ 28.5	△ 38.4	△ 33.3	△ 25.0	△ 33.3 (△ 50.0)



【平成18年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.6(前月水準▲5.4)となり、マイナス幅が▲1.2ポイント拡大した。

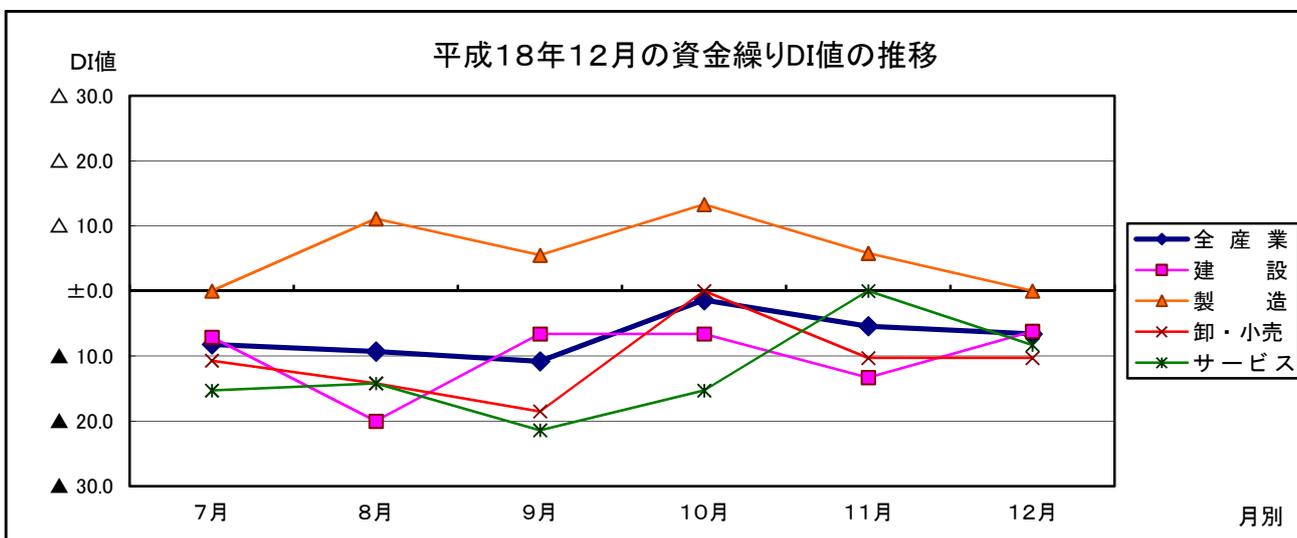
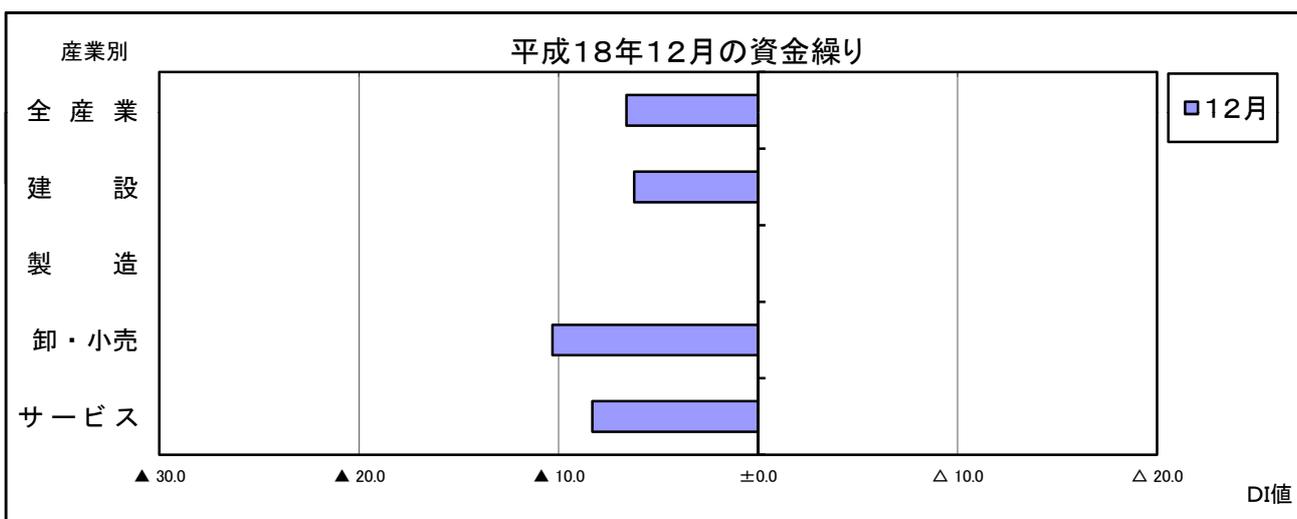
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△5.8)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲6.2(同▲13.3)である。変らない業種は、卸小売業▲10.3(同▲10.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲8.3(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.6(前月水準▲1.3)となり、マイナス幅が▲1.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通し業種は、建設業△12.5(同△6.6)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△5.5(同▲5.8)である。変らない見通しの業種は、サービス業▲8.3(同▲8.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲13.7(同±0.0)である。

平成18年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲ 8.2	▲ 9.3	▲ 10.8	▲ 1.4	▲ 5.4	▲ 6.6	▲ 2.6 (▲ 1.3)
建設	▲ 7.1	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 6.2	△ 12.5 (△ 6.6)
製造	±0.0	△ 11.1	△ 5.5	△ 13.3	△ 5.8	±0.0	△ 5.5 (▲ 5.8)
卸・小売	▲ 10.7	▲ 14.2	▲ 18.5	±0.0	▲ 10.3	▲ 10.3	▲ 13.7 (±0.0)
サービス	▲ 15.3	▲ 14.2	▲ 21.4	▲ 15.3	±0.0	▲ 8.3	▲ 8.3 (▲ 8.3)



【平成18年12月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	市内の建設シェア、リフォームシェア多大にある魅力ある街なのですね。至るところに大手ゼネコン、中堅ゼネコンの建設、リフォーム会社の増えたこと。地場産業にとっては大変低いシェアの中で営業活動を強いられている。	・ゼネコン参入	一般土木建築工事業
	発注物件数はあるものの、予算と仕入単価とのバランスが悪く、利益ベースは下降をたどっている。	・仕入上昇 ・利益減少	一般土木建築工事業
	大きな動きはありません。	・変化なし	一般土木建築工事業
	材木等はずもとより石油の高騰により住宅機器等も上がっております。	・仕入上昇 ・原油高騰	一般土木建築工事業
	TX(つくばエクスプレス沿線)がらみの仕事が出ているが、全体的には例年に比べて仕事の引き合いが少ない。色々な計画がされているが、地元業者の参入機会がまだ少ない。来年度は業界的にも個々のにも参入を希望しているところ。	・TX ・引き合い ・参入機会	土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	年内完了予定工事が集中し、人手不足が続きます。何とか調整しつつ乗り切るしかありません。休日返上状態なので社員の疲労が心配です。	・工事集中 ・人手不足 ・休日返上	板金・金物工事業
	9月ごろに比べて、少しは仕事の量が多くなった様な気が致します。	・受注増加	塗装工事業
製造	業界全体で前年103%程度となった模様。	・売上増加	清涼飲料製造業
	昨年と比較し、売上は伸びているが、原材料価格の上昇が利益を圧迫している。増収減益の状況にある。	・売上増加 ・仕入上昇 ・利益減少	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	好転しているが、複写機(特にカラー機)の需要が落ち着いてくると楽観視は出来ない。	・複写機好転	その他の鉄鋼業
卸・小売	年末を控え食品業界も多少良い業況になると思います。ただ飲食店を中心に過剰なまでのマスコミの飲酒運転報道は、忘年会や新年会にまで影響が出ると考えられます。	・年末商戦 ・飲酒運転	食料・飲料卸売業
	お歳暮ギフトセンターは前年の売上を上回る見通し	・年末商戦 ・売上増加	百貨店
	衣料品、住居が暖冬傾向によりシーズン品の動きが悪く不振。食品は昨比維持レベルで推移している。柏の葉ららぼーとの影響も当初(衣料・住居に影響あり)から見ると一段落したと思われるが、上昇の芽が出てこない状況。	・暖冬 ・衣料、住居不調 ・食品横這い ・ららぼーと柏の葉	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	最近の柏市内は、大型ショッピングセンターのオープンで熾烈な動きの中、青果卸としての対応も生産者への安心・安全と迅速化を要望する。野菜は入荷減で単価も安値。年末に向けて、例年の回復取引を期待しています。果実は前月に引き続き、柑橘類のみかんは高値の動き。他は前年並みの予想。相対的には消費量の伸び悩みで厳しい状況で販売努力をしています。	・ららぼーと柏の葉 ・野菜入荷減単価安 ・みかん単価高 ・果実単価変わらず ・消費伸び悩み	食料・飲料卸売業
	11月も最終的には、ほぼ前年並みの売上を確保できた。今月も15日までの期間でみると前年と変わらず推移している。店舗近くのマンションの外壁補修工事関係者等による、弁当や飲料の需要が貢献している。	・売上横這い	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	やはりららぼーとの影響があるようです。少しですが、大型店の店舗が少しダウンです。	・ららぼーと柏の葉 ・売上減少	菓子・パン小売業

【平成18年12月の業種別業界内トピックス】

	<p>ここ2、3年採算・業況が上昇・好転。ただし大手ショッピングセンターや大手企業(物流含む)の進出の影響か、人材不足。(良い)パートさん等が集まりにくい。事業に影響する。ららぽーとの出店で心配された客足も現在のところ影響がない。ただし、北部近隣の飲食店では客足が奪われて出ているようです。交通渋滞も当初だけで現在のところ平常に戻っている。電車利用でのお客さんが多いようだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ららぽーと柏の葉 ・交通渋滞 ・人手不足 	その他の飲食料品小売業
	<p>特にありませんが、ノロウィルスがはやってます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノロウィルス 	医薬品・化粧品小売業
	<p>仕入単価の下落より市況が軟化しすぎである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入単価 ・市況軟化 	ガソリンスタンド
	<p>原油高騰のため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原油高騰 	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	<p>量販店とガソリンスタンドプラス暖冬にあい、引き売り業者まで苦境に立っている灯油の販売状況である。前者は損を承知で販売しても他の販売品があるから徳も大きい。我々は死活問題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・暖冬 ・灯油 ・競争激化 	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	<p>同業者のオーバーフロア化がますます進展し、業界全体が疲弊。小売のみならず、卸・出版社の経営危機表面化の可能性大か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大型店開店 ・書籍業界 	書籍・文房具小売業
	<p>南柏駅前、イオン、三井ららぽーとと新規開店が相次ぎ、駅周辺の集客力が落ちている。来年3月の東神おたかの森も不気味。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大型店開店 ・柏駅周辺地域 ・客数減少 	書籍・文房具小売業
	<p>提出日が早すぎて12月の業況(クリスマス商戦)がつかめません。</p>		時計・眼鏡・光学機械小売業
	<p>年末商戦たけなわと行きたいところですが、先の見えない空気が感じられる年の瀬です。1年中営業している安心感か？あわてて買い物をするような雰囲気は見当たりません。暖冬のため『花』も早咲き。必要な時期に高値となりそうな状況です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年末商戦 ・暖冬 	花、植木小売業
	<p>年末商戦に突入したが、前年数字はとれていない。特に賞与時期にもかかわらず、高額商品の売れ行きが良くない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年末商戦 ・売上減少 ・高額商品 	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	<p>12月は11/22に柏の葉キャンパスに「ららぽーと柏の葉」がオープンした影響により、月初から入店客数は低調な出足となった。特に週末の入店客数は平日よりも落ち込みが大きく、売上高は客数の影響を大きく受ける雑貨業種、飲食業種が低迷した。衣料品については大きな影響はないものの、昨年よりジャケットの動きが鈍く、客単価の減少がみてとれ、中旬までの売上高は前年を切る推移となっている。11/15から開催した【2006 Christmas Live Laugh Love】のイベントは高島屋を含めた、館一体となったイベント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ららぽーと柏の葉 ・客数減少 ・売上減少 ・雑貨、飲食不調 ・衣料横這い ・クリスマス商戦 	各種商品小売業
	<p>経営統合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経営統合 	農畜産物・水産物卸売業
サービス	<p>ボーナス前はとても暇でしたが、ボーナス後は家族連れのお客が増えた気がしました。クリスマスは23、24日の予約が多いようです(25日は平日のため?)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーナス ・客数増加 ・クリスマス商戦 	食堂・レストラン
	<p>11月中は予約客で忙しい日々でした。12月に入って、忘年会の予約が伸びず、少人数化が進んでいる。また忘年会予算も低予算化が進んでいるようだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・忘年会 ・宴会小人数化 ・単価減少 	食堂・レストラン
	<p>宴会件数は昨年と変わらず、しかし規模は小振傾向。宿泊はスポーツ関連はほぼ前年並み。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宴会小人数化 ・宿泊横這い 	ホテル

【平成18年12月の多い景気キーワード】

◎クリスマス商戦・年末商戦

- ・ 年末を控え食品業界も多少良い業況になると思います。 (卸小売業)
- ・ お歳暮ギフトセンターは前年の売上を上回る見通し (卸小売業)
- ・ 年末商戦たけなわと行きたいところですが、先の見えない空気が感じられる年の瀬です。1年中営業している安心感か？あわてて買い物をするような雰囲気は見当たりません。 (卸小売業)
- ・ 年末商戦に突入したが、前年数字はとれていない。特に賞与時期にもかかわらず、高額商品の売れ行きが良くない。 (卸小売業)
- ・ 11/15から開催した【2006 Christmas Live Laugh Love】のイベントは高島屋を含めた、館一体となったイベント内容となっており、後半のクリスマス商戦を盛り上げていく。 (卸小売業)
- ・ クリスマスは23、24日の予約が多いようです(25日は平日のため?)。 (サービス業)

◎ららぽーと柏の葉

- ・ 柏の葉ららぽーとの影響も当初(衣料・住居に影響あり)から見ると一段落したと思われるが、上昇の芽が出てこない状況。 (卸小売業)
- ・ やはりららぽーとの影響があるようです。少しですが、大型店の店舗が少しダウンです。 (卸小売業)
- ・ ららぽーとの出店で心配された客足も現在のところ影響がない。ただし、北部近隣の飲食店では客足が奪われて出ているようです。交通渋滞も当初だけで現在のところ平常に戻っている。電車利用でのお客さんが多いようだ。 (卸小売業)
- ・ 12月は11/22に柏の葉キャンパスに「ららぽーと柏の葉」がオープンした影響により、月初から入店客数は低調な出足となった。特に週末の入店客数は平日よりも落ち込みが大きく、売上高は客数の影響を大きく受ける雑貨業種、飲食業種が低迷した。衣料品については大きな影響はないものの、昨年よりジャケットの動きが鈍く、客単価の減少がみてとれ、中旬までの売上 (卸小売業)

平成18年12月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.6に対し、「CCI-LOBO」が▲25.2で、マイナス幅が10.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業。10ポイント以上良い業種は、製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.6に対し、「CCI-LOBO」が▲17.6で、マイナス幅が11.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で10ポイント以上良くなっている。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.0に対し、「CCI-LOBO」が▲25.6で、マイナス幅が17.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.0に対し、「CCI-LOBO」が▲26.0で、マイナス幅が14.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で悪くなっており、10ポイント以上悪い業種は、建設業・卸小売業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△13.3に対し、「CCI-LOBO」が△2.7で、プラス幅が10.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.6に対し、「CCI-LOBO」が▲17.6で、マイナス幅が11.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。

平成18年12月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 14.6	 37.5	 16.6	 20.6	 16.6
CCI LOBO	 25.2	 34.4	 15.2	 25.6	 27.0

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 6.6	 12.5	 38.8	 31.0	 41.6
CCI LOBO	 17.6	 27.3	 4.2	 19.5	 20.9

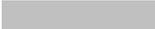
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 8.0	 6.2	 5.5	 13.7	 ±0.0
CCI LOBO	 25.6	 43.0	 18.8	 18.5	 27.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 40.0	 56.2	 44.4	 34.4	 25.0
CCI LOBO	 26.0	 38.0	 42.9	 8.7	 20.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 13.3	 18.7	 16.6	 3.4	 25.0
CCI LOBO	 2.7	 12.9	 3.9	 8.2	 7.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 6.6	 6.2	 ±0.0	 10.3	 8.3
CCI LOBO	 17.6	 29.5	 13.9	 13.6	 17.1

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成18年12月14日～20日

調査対象：全国の407商工会議所が2589業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

冬物売上低迷や仕入コスト高により業況D-Iのマイナス幅は三カ月ぶりに拡大

十一月の景況をみると、全産業合計の業況D-I(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(一四・五)よりマイナス幅が〇・七ポイント拡大して二五・二となり、三カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

【建設業】では、「業況は依然として厳しいが年度後半の受注に期待している」「(一般工事)との声がある一方、「公共工事の削減は地方の中小規模の建設会社に大きなダメージを与えており、事業縮小に伴う人員解雇が行われた例もある」「(建築工事)、「民間企業の設備投資が不調で、顧客からの見積依頼が大幅に減少している」「(土木工事)との声も寄せられている。

【製造業】では、「全般的に高水準で安定した操業を続けており、先行きにも不安材料は見当たらない」「(金属加工機械製造)との声がある一方、「客単価が一向に上がらず、個人消費は依然として低い水準で推移している」「(パン・菓子製造)とのコメントのほか、「原油価格高騰により燃料やパルプ、古紙などの仕入コストが上昇するなど、厳しい状況に陥っている」「(紙製造)と、仕入コスト上昇による影響を訴える声も

寄せられている。

【卸売業】では、「今月の売上は前年同月比で横ばいだが、先行きは増加すると考えている」「(農産物卸売)との声がある一方、「同業者間における競争激化等による販売単価下落や仕入コスト上昇により、採算の悪化を訴える企業が増加している」「(各種商品卸売)とのコメントのほか、「少しずつではあるものの、借入金利の上昇が資金繰りを圧迫し始めている」「(鉱物金属材料卸売)との声も寄せられている。

【小売業】では、「当商店街の飲食店やホテルは、忘年会や新年会、さらには団塊世代による同窓会の予約が好調で売上が増加する見込み」「(商店街)との声がある一方で、「気温が平年レベルまで下がらず、衣料品の売上が苦戦している」「(百貨店)、「十一月に入ったが気温は下がらず防寒用衣料の売れ行きが悪い」とも、「年末商戦も先行きが見えない状況にある」「(百貨店)と、冬物商品の売上低迷を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「宿泊者数は横ばいで推移したものの、日帰り客の増加や土産品、飲食部門の売上増加により、温泉町全体の業況は好調と判断している」「(旅館)との声がある一方で、「宅配便事業は他社の参入により競争が激化して売上が大幅に減少する」とも、「トラック輸送事業でも原油価格高騰による燃料費の増加が収益を圧迫している」「(その他サービス)とのコメントも寄せられた。また、「忘年会の予約件数は年々減少傾向にある一方、年末年始の宿泊予約は好調だが、今後はノロウィルスの流行による牡蠣料理目的の来店者数減少が懸念される」「(旅館)と、食中毒の流行による影響を訴える声も寄せられている。

十一月のキーワード

回復への動き

各業種から、業況好転、売上増加、消費回復、先行き期待といった声も寄せられている。「増改築工事が増加しており、業況は好転していると感じている」「(建築工事)、「受注が増加するとともに、販売単価の改善も同時に進行していることから、業況は好転していると判断できる」「(輸送用機械製造)とのコメントが寄せられている。また、「売上が対前年同月比で伸びてきており、今後、本格的な回復を期待している」「(農産物卸売)、「お歳暮の客単価はわずかではあるが上昇している」「(百貨店)との声のほか、「来年の二月から三月にかけて車検の受注が増える見込みであり、若手ではあるが先行き見通しは明るい」「(自動車整備)とのコメントも寄せられている。

悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き悪化への懸念

冬物の売上低迷

また、暖冬の影響等による冬物衣料品の売上低迷を訴えるコメントが寄せられている。卸売からは、「暖冬により冬物衣料品の売上が不振に陥っており、在庫増加と資金繰りの悪化を懸念している」「(繊維品卸売)との声も寄せられている。また、小売からは、「依然として冬物商品の売上が低迷しており、先行きも悲観的な見通し

を述べる声が多い」「(商店街)、「今年の冬の平均気温が昨年と比べて高いせいか、衣料品、食品、生活雑貨など冬物商品の売上が不振」「(百貨店)との声のほか、「価格競争が激しい中で薄型ハイビジョンテレビが好調で売上高はわずかに伸びているが、暖房費の動きは鈍い」「(その他の小売)、「生鮮食品の売上は増加したものの、冬物衣料品の売上は暖冬の影響で減少した」「(百貨店)といったコメントも寄せられている。

全国・産業別業況D-Iの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	24.0	36.5	8.3	31.8	22.4	31.4
8月	22.9	34.8	12.8	30.5	19.7	26.7
9月	27.0	43.1	14.3	32.9	22.0	33.3
10月	25.2	38.1	13.4	34.4	23.1	28.1
11月	24.5	39.6	11.3	36.6	22.8	25.7
12月	25.2	34.4	15.2	31.3	25.6	27.0
見通し	25.3	36.5	17.2	32.3	20.9	29.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD-I